

1 単元名 「花房飛行場から学ぶ戦争と平和」

2 単元の目標

- 太平洋戦争、第二次世界大戦に至る歴史的背景を学び、戦時下における国民の生活や皇民化教育の実態について理解を深める。 (知識及び技能)
- 特攻について多角的に考察し、自分自身の見解を形成する。 (思考・判断・表現)
- 花房飛行場跡地の見学を通して、地域に残る戦争の痕跡に触れ、平和の尊さについて主体的に考える。 (主体的に学習に取り組む態度)
- これまでの学習を振り返り、平和な世界、国、生活のために自分にできることを考える。 (思考・判断・表現)

3 単元について

(1) 教材観

花房飛行場の跡地という地元の戦争遺構を活用することで、戦争が「遠い昔の話」ではなく、「自分たちの暮らす場所で起きた現実」だと実感できる。実際に現地を訪れ、銃弾の跡や給水塔などを目にするだけで、教科書だけでは得られないリアルな学びがうまれる。また、特攻隊員の手紙や証言、語り部の話などを取り入れることで、戦争を「数字」や「歴史的事象」ではなく、「現実」として捉えることができる。これにより、子どもたちは戦争の悲惨さや平和の尊さを自分ごととして捉えることができる。さらに、平和への思いを詩や作文、ポスターなどで表現する活動を取り入れると、自分の考えを深め、他者に伝える力が育つ。そして、花房飛行場と他の戦争遺構（例：知覧）とのつながりを学ぶことで、地域と全国、過去と現在がつながっていることに気づかせることにつながる。これにより、戦争を立体的に捉える力を育成することができる。

(2) 生徒観

本単元の対象となる生徒は、落ち着いた学習態度を持ち、真剣に学びへ向かう姿勢が育っている。自らの考えを文章で表現する力も備えており、学びを深める意欲が感じられる。一方で、戦争というテーマに対しては、これまでの平和学習を通して「悲惨さ」や「平和の大切さ」を理解しているものの、戦争が自分たちの生活とどのように関わっているのかを実感することが難しく、戦争を「遠い過去の出来事」として捉えている生徒が多い。

そのため、戦争の実相をより具体的に捉え、自分の言葉で「何が悲惨だったのか」「なぜ平和が大切なのか」を表現できるようになることが求められる。地域の戦争遺構である花房飛行場の学習を通して、戦争が身近な場所でも起きていた現実気づき、歴史を自分ごととして捉える力を育むことが期待される。

### (3) 指導観

この授業では、知識を一方的に与えるのではなく、生徒自身が主体的に調べ、考え、気づくことを大切にしている。戦争というテーマは抽象的で遠い存在になりがちだが、調べ学習を通して「自分の言葉」で理解し、「自分の視点」で悲惨さを捉えることで、記憶に残る深い学びへとつながる。

特に、熊本県や菊池市という身近な地域に目を向けることで、戦争が「遠い過去の出来事」ではなく「自分たちの暮らしのすぐそばで起きていた現実」であることに気づかせることができる。この気づきは、生徒の学びへの意欲を高め、歴史を自分ごととして捉える力を育む。

さらに、花房飛行場の現地訪問を通して、調べた知識と実際の風景が結びつき、学びが立体的に深まる。地域の戦争遺産に触れることで、平和の尊さを実感し、未来に向けて「自分にできること」を考えるきっかけとなる。

このような指導は、生徒の主体性を尊重し、調べる→気づく→実感する→考えるという流れを大切にすることで、心に残る平和学習を実現する。

### (4) ESD との関連

#### ・本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

多様性…異なる意見に触れることで、自分の考えを見直したり、他者の立場に立って考える力が育まれる。これは、平和な社会を築くために欠かせない「共感力」や「対話力」の土台となる。

公平性…戦争を知らない世代にとって戦争の痛ましい記憶は風化しつつある。現代の価値観だけでなく、過去や未来の人にとっての平和、公平性を視点として学習を進めることができる。

#### ・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

多面的・総合的に考える力 (システムズ・シンキング)

花房飛行場の学びを通して、今の世界の戦争や紛争、平和活動と結びつけて考えることができる進んで参加する態度。

実際に飛行場跡を歩き、銃弾の跡が残る建物や給水塔、倉庫跡などを見学することで教科書だけでは得られない「実感」が得られ、「もっと知りたい」「自分も何かしたい」という意欲を高めることができる。

#### ・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

戦争によって奪われた命や、語られなかった人々の存在に触れることで、「誰もが平等に大切にされるべきだ」という公正・公平の価値観も育まれる。

幸福感に敏感になる。幸福感を重視する

特攻隊員や地域の人々の話を聞くことで、「自分だったらどう感じるだろう?」「家族を残して戦地に行くって、どんな気持ちだったのだろうか?」と想像できる。これは、他人の立場に立って考える力=共感力を育て本当の幸福とは何かを考えることにつながる。

## ・達成が期待される SDGs

16 平和・公正



### 4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 皇民化教育や当時の国民生活についても、地域の歴史や証言を通して学ぶことで、戦時下の社会の様子を具体的に理解している。</p> <p>② 年表や資料などから分かったことを現代の社会と比較しながらまとめている。</p>	<p>① 特攻隊員の遺書や証言を通して、「なぜ若者が命を捧げたのか」「自分ならどう感じるか」と考えている。</p> <p>② 命の重みや戦争の悲惨さを自分の言葉で表現している。</p>	<p>① 特攻や戦争の歴史について学んだあと、「平和のために自分にできることはないか」「どんな未来をつくりたいか」など自分にできることを模索している。</p>

## 5 単元の指導計画(全8時間)

主な学習計画	学習への支援	評価 (△) 備考 (・)
1 太平洋戦争について自分が興味をもったことを個人で調べる。	○太平洋戦争での被害者の数や沖縄戦、原爆など何を調べてよいか分からない生徒に対しては項目を提示する。	ア① 知・技
2 熊本県ではどのような戦争遺構やエピソードがあるのか個人で調べ教え合う。  3 菊池市にはどのような戦争遺構やエピソードがあるか個人で調べ教え合う。	○図書館から資料や本を借りておき調べさせたい内容に導く。  ○身近に戦争遺構があることを自らで気づく。	ア② 知・技
4 花房飛行場がどのような場所であったか個人で調べ教え合う。  5 特攻作戦をどう思うかを議論する。 ・ 当時の生活や教育から特攻について仕方がない ・ 敵国を倒さないと家族が守れない ・ どうして若者が死ななければならないのか ・ なぜ特攻という作戦を思いつくのか、許せない  6 特攻作戦の数分前に笑顔で写真に写った兵士の想いを予想する。	○花房飛行場についてのネット記事や「菊池（花房）飛行場の戦争遺産を未来につたえる会」の資料を示す。  ○特攻について自由に意見が出せるような様々な立場の意見を示す特攻について、いろいろな考えがでてきたこと自体が、自由な平和な証拠である。いろいろな価値観があっていい。当時はそれが許されなかったことを抑える。  ○「特攻とは何だったのか 若者を死に向かわせた作戦」の映像資料を視聴し手紙や写真から特攻隊員の心情を考える。	ア② 知・技  イ① (思判表)  イ② (思判表)
7 花房飛行場を訪れ、ガイドさんの話を聞きながら戦争遺構を回る。	○今までの学習を思い出しながら飛行機が収納された格納庫や銃弾の跡などに注目させる。	イ① (思判表)
8 活動の振り返りをする。	○自分はどう思ったか。どう行動していきたいか。自分ごととしてまとめることを行う。	ウ① (主体的)